

調査項目「地域防災とまちづくり」

1. はじめに

箕面市では避難所運営を主に地区防災委員会が担うことになっている。

また1月17日を全市一斉総合防災訓練の日とするほか、各地域でも自主的な防災の取り組みが進められている中で、地区防災委員会の方が災害の被災者となる可能性や避難所運営が長期化した場合は地区防災委員会の負担は大きいものとなっていく。

今後、避難所の福祉的環境の整備や災害関連死を防ぐ取り組みが進んでいく中で、避難所の在り方や地域防災を調査・研究する必要があると考え、「地域防災とまちづくり」をテーマに決定した。

2. 調査経過

日 時	活 動	概 要
R 7. 2. 4 R 7. 2. 5	視 察	・宮崎県都城市 避難所のデジタル化を含む地域防災力の向上について ・鹿児島県霧島市 きりしま防災・行政ナビの運用と地域防災力の向上について
R 7. 5. 10	地域別意見交換会	市内3箇所にて開催 「地域防災とまちづくり」についてグループディスカッション形式で意見交換
R 7. 5. 20	分野別意見交換会	「令和6年度能登半島地震」に被災地派遣された市職員3名の方と意見交換 特に避難所運営について意見交換

3. 調査報告と提案

(1) 調査報告

①地域別意見交換会では災害の種類に応じた避難所を決めるべきである。また災害発生時の対応について、戸建てとマンションでは考え方や事情が異なるため、住民との理解が必要である。また地域防災ステーションの在り方についてもご意見をいただいた。

②分野別意見交換会では実際に被災地支援、特に避難所運営に行かれた職員の方から被災地の様子、避難所の状況のほか支援物資・トイレ・ペットとの避難についてなど様々な状況をお聞きした。実際に支援に行かれたからこそわかる課題もお聞きすることができた。

③視察では、都城市の「避難所管理システム」について学び、入所受付方法がマイナンバーカード、運転免許証、口頭で聞き取る方法、QRコードで読み取る方法があり、避難者カード（紙）に記入する必要がなく迅速な受付が可能となるとのこと。

大災害時にはシステムよりは紙のカードの入所受付の方が有効となる可能性も考えられる。との見解も教えていただいた。

霧島市の「防災アプリ」について、登録者の即時通知・文字情報で発信することにより聴覚障がい者の方への対応・音声読み上げ機能で弱視の方への対応・多言語対応などがあり利便性が向上している。

また、ハザードマップも電子化し、市としては紙の配布をやめる。という画期的な方法もとられていた。

（２）提案

避難所運営について、箕面市は備蓄品や個別パーテーションの導入など避難所の環境整備については進んでいると感じている。その一方で、分野別意見交換でお聞きした避難所の防犯対策の更なる向上や個別パーテーションは快適だが、中の様子が把握できない。ということからプライバシーの確保と安全面が相反する場合もある。と聞いてまさしくその通りであると痛感した。

今後の避難所運営では防犯対策の更なる向上や各避難所の死角になりやすい場所の把握や長期化した際の健康に対する十分な配慮が必要と考える。

4. おわりに

今回の視察で学んだ「避難所管理システム」のように避難者情報のリアルタイムな把握と共有や物資管理や避難所の把握状況など、災害時の避難所運営の効率化を中心とした避難所のデジタル化が進んでいくものと考えている。この点については今後も調査・研究をしていく必要と十分にあると考える。